

実施要領 様式11(第13条関係)
【認知症対応型共同生活介護用】

評価結果公表票

作成日 平成21年5月15日

【評価実施概要】

事業所番号	270301336
法人名	医療法人すみれ会
事業所名	グループホーム舟見町
所在地	青森県八戸市江陽5丁目7-24 (電話)0178-73-5725
評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央三丁目20-30 県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成20年12月22日

【情報提供票より】(平成20年11月6日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成16年1月15日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	1 人
職員数	7 人	常勤	6人, 非常勤 1人, 常勤換算 6.6人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	2階建ての	1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費 10,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	—
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,000 円

(4)利用者の概要(平成20年11月6日現在)

利用者人数	9名	男性	5名	女性	4名
要介護1	3名	要介護2	4名		
要介護3	1名	要介護4	0名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 75.5 歳	最低	68 歳	最高	84 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	美保野病院(歯科含む) きむらクリニック
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

交通の利便性が高い住宅街に立地しているほか、大型ショッピングセンターや野菜専門店が近くにあり、生活環境に恵まれている。また、ホームは玄関やホールがバリアフリーとなっており、死角が少ない作りとなっている。ソファやテーブル、畳のスペースもあり、家庭的な雰囲気である。

運営者は今年目標に「介護技術の向上と制度知識」という方針を示しており、内部研修計画を作成し、職員の個々の力量や経験に応じた研修が受けられるよう配慮している。受講後は報告書を作成するほか、伝達研修を行い全職員に周知している。また外部に、業務に関する助言を行う人材を、確保している。

利用者が安心してサービスを開始できるよう、利用者の思いを尊重し、利用者の視点で支援するように努めている。また、時間を十分に掛け、徐々に馴染むことができるよう支援している。

週2回の食材の買出しなど、日常的に外に出る機会を設けているほか、利用者の希望や習慣を取り入れた支援を行っている。外出の際は体調や移動方法等に配慮し支援している。

【特に改善が求められる点】

市にホームの実態等を理解してもらうため、まずはパンフレットや広報誌を配布することに期待したい。

利用者の重度化や終末期の対応について、ホームとしての方針を明確にすることに期待したい。

食事の際は介助する一方にせず、利用者にとって食事が楽しい物となるよう、可能な限り同じ食卓で一緒に食事を取ることに期待します。

災害発生時に備え、ホーム内に食料や水、寒さをしのげる物品等を準備することに期待したい。

市の栄養士等と連携を密にし、定期的に専門的アドバイスを得られる体制を整えることに期待したい。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の改善項目をもとに、担当職員を中心に会議等で改善策を話し合い、ケアサービスの向上に取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>運営者や管理者は、評価の意義や目的を、会議等で周知しているほか、活用方法を理解している。 自己評価を作成する場合は、環境、食事、入浴、排泄等の業務担当を決め、関連項目毎に取り組んでおり、全職員が関わっている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は、町内会長や民生委員、利用者家族で構成されており、2ヶ月毎に開催している。 また、自己評価や外部評価結果について報告し、情報交換が行われている。職員は、委員から積極的に発言が得られるよう取り組んでいるほか、出された意見等はサービスの質の向上に繋げている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)</p> <p>毎月、担当職員から利用者の暮らしぶりや健康状態、サービス提供体勢について報告している。また、状態変化時等は、随時連絡している。出納簿は利用者ごとに作成し、定期的に報告している。 運営推進会議に積極的に参加を促すなど、意見や要望を出しやすい雰囲気を作っており、内部・外部苦情受付窓口を明示しているほか、ホーム内に掲示し周知している。出された意見等は全職員で話し合い、ケアサービスに活かすよう取り組んでいる。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に加入し、行事に参加したり、日頃からホーム周辺の散歩等を通して、ホームに気軽に立ち寄って貰えるように働きかけている。また、保育園児等との交流も図っている。 中学校の職場体験学習等を受け入れており、社会的資源としての人材育成を行っているほか、外部の方が出入りする場合は、利用者のプライバシーに十分配慮している。</p>

【各領域の取組状況】

領域	取り組み状況
I 理念に基づく運営	<p>ホームは開設当初から、地域との関わりを密にしており「深い愛情と思いやりをもって介護し、常に向上心を持ち、技術の習得に努め、地域の中でその人らしく安心して暮らしを支えます」という理念を掲げ、採用時やカンファレンス時、日々の業務時に理念を周知し、共有化すると取り組みを行い、愛情と思いやりを持って利用者に接するなど、サービス提供場面に反映させている。 地域のグループホーム連絡協議会に加盟し、外部研修等に参加し、交流や連携のきっかけ作りを行っている。また、他グループホームの見学や行事に参加することで、職員の育成に繋げている。</p>
II 安心と信頼に向けた関係作りと支援	<p>利用者が安心してサービスを開始できるよう、利用者の思いを尊重し、利用者の視点で支援するように努めている。また、時間を十分に掛け、徐々に馴染むことができるよう支援している。 利用者の生活歴等を把握し、喜怒哀楽を共に感じることで理解するよう努めている。また、利用者の得意分野や習慣が活かされるよう働きかけながら、共同で生活している。</p>
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<p>介護計画作成時はできるだけ利用者の意向を取り入れ、カンファレンスにおいて、全職員による意見交換を行い作成している。また、家族等からの意見も十分に受け入れ、個々に合わせた具体的なものとなっている。 これまでの受療状況を、アセスメントにより把握しており、利用者や家族が希望する医療機関を受診でき、いつでも気軽に相談できるよう、連携を図っている。また、看護師である管理者が調整役となり、家族や医療機関との情報の共有が図られている。</p>
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<p>利用者の思いを受け入れる体制で接しており、一人ひとりを理解した上で、相応しい呼びかけや声かけを行っている。また、介助時等は利用者の羞恥心やプライバシーに配慮している。職員は個人情報保護法について理解しており、記録簿等は事務室に保管している。 週2回の食材の買出しなど、日常的に外に出る機会を設けているほか、利用者の希望や習慣を取り入れた支援を行っている。外出の際は体調や移動方法等に配慮し支援している。 利用者は、自分の好きな歌手のテープや写真、辞書など、馴染みの物を持ち込んでいるほか、一人ひとりに合った居室作りを職員と利用者と一緒にやっている。</p>

評 価 報 告 書

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを 期待したい 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者や職員は、地域密着型サービスの役割を理解しており、「地域の中でその人らしく安心して暮らしを支えます」という理念が作成されており、その役割を反映させている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	採用時やカンファレンス時、日々の業務時に理念を周知し、共有すると取り組みを行っており、愛情と思いやりを持って利用者に接するなど、サービス提供場面に反映させている。		
2. 地域との支えあい					
3	4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	町内会に加入し、行事に参加したり、日頃からホーム周辺の散歩等を通して、ホームに気軽に立ち寄って貰えるように働きかけている。また、保育園児等との交流も図っている。中学校の職場体験学習等を受け入れており、社会的資源としての人材育成を行っているほか、外部の方が出入りする場合は、利用者のプライバシーに十分配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者や管理者は、評価の意義や目的を、会議等で周知しているほか、活用方法を理解している。自己評価を作成する場合は、関連項目毎に取り組んでおり、全職員が関わっている。外部評価の結果を基に、職員会議等で改善策を話し合い、迅速に取り組んでいる。		
5	6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、町内会長や民生委員、利用者家族で構成されており、自己評価や外部評価結果について報告し、情報交換が行われている。また、委員から積極的に発言が得られるよう、取り組んでいるほか、出された意見等はサービスの質の向上に繋げている。		
6	7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に出席の際に、自己評価や外部評価結果を報告している。必要に応じて、日常の具体的な支援業務に関する課題解決に向け、連携を図るよう努めている。しかし、ホームのパンフレットや広報誌を配布するまでには至っていない。	○	ホームの実態等を理解してもらうため、まずパンフレットや広報誌を行政に配布することに期待したい。
7	8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者が外部研修等を受講し、伝達研修を行うことで、全職員が地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について概ね理解しており、必要に応じて積極的な情報提供等を行う体制が整っている。		
8	9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修を行い、高齢者虐待防止法について理解を深める取り組みを行っており、管理者は職員の心身の変化に心配りを欠かさないう心がけ、未然に防ぐよう努めている。虐待を発見した場合の対応方法についての取り決めがあり、全職員が理解しているほか、今後マニュアルを作成する予定となっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書に沿って、ホームの理念や方針等を説明しており、本人や家族の思いを引き出すよう働きかけている。契約改定時や退去の際は説明を行い、同意を得ている。退去の際は、利用者の立場に立ち、不安の無いように情報提供等の支援を行っている。		
10	12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月、担当職員から利用者の暮らしぶりや健康状態について報告している。また、状態変化時等は、随時連絡している。出納簿は利用者ごとに作成し、定期的に報告しているほか、サービス提供体勢に変化があった場合は、面会時に報告している。		
11	13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に積極的に参加を促すなど、意見や要望を出しやすい雰囲気を作っており、内部・外部苦情受付窓口を明示しているほか、ホーム内に掲示し周知している。出された意見等は全職員で話し合い、ケアサービスに活かすよう取り組んでいる。		
12	16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動による影響を理解し、配慮を心掛けている。異動を行う際は、動揺を与えないよう十分に説明を行っているほか、引継ぎは確実・迅速を心掛けている。新しい職員を配置する場合は、他職員がサポートし、十分に説明を行い、馴染みの関係作りに努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は今年目標に「介護技術の向上と制度知識」という方針を示しており、内部研修計画を作成し、職員の個々の力量や経験に応じた研修が受けられるよう配慮している。受講後は報告書を作成するほか、伝達研修を行い、全職員に周知している。また外部に、業務に関する助言を行う人材を、確保している。		
14	18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム連絡協議会に加盟し、外部研修等に参加し、交流や連携のきっかけ作りを行っている。また、他グループホームの見学や行事に参加することで、職員の育成に繋げている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気にながら馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者が安心してサービスを開始できるよう、利用者の思いを尊重し、利用者の視点で支援するように努めている。また、時間を十分に掛け、徐々に馴染むことができるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の生活歴等を把握し、喜怒哀楽を共に感じることで理解するよう努めている。また、利用者の得意分野や習慣が活かされるよう働きかけながら、共同で生活している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントや日々のコミュニケーションから、利用者の思いや意向を把握するよう努めている。また、十分に意向が把握できない場合は、全職員で把握するよう努めている。必要に応じて家族や関係者等からも情報収集を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成時はできるだけ利用者の意向を取り入れ、カンファレンスにおいて全職員による気づきを取り入れて作成している。また、家族等からの意見も十分に取り入れ、一人ひとりに合わせた具体的なものとなっている。		
19	34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の実施期間を明示しており、期間終了後は見直しを行っている。また、状態変化等に応じ、再アセスメントを行い、随時見直しを行っているほか、職員は、日々の利用者の様子を観察し、意向等の把握に努めている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけ医への受診介助のほか、月ごとの行事に合わせた支援を行っている。以前通っていた通所施設の訪問など、利用者の意向に合わせ、柔軟な対応を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでの受療状況を、アセスメントにより把握しており、利用者や家族が希望する医療機関を受診でき、いつでも気軽に相談できるよう、連携を図っている。また、看護師である管理者が調整役となり、家族や医療機関との情報の共有が図られている。		
22	44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期にした場合に備えて、かかりつけ医と連携を図りながらいし意思統一を図っている。また、状況変化がある時は随時話し合いを行っている。しかし、ホームとしての方針を明確にするまでには至っていない。	○	利用者の重度化や終末期の対応について、ホームとしての方針を明確にすることに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者に寄り添い、思いを受け入れる体制で接しており、一人ひとりを理解した上で、相応しい呼びかけや声がけを行っている。また、介助時等は利用者の羞恥心やプライバシーに配慮している。職員は個人情報保護法について理解しており、記録簿等は事務室に保管している。		
24	49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせるケアを、今年度の目標の一つに掲げ、利用者のその日の希望や身体・精神状況に合わせた柔軟な対応を心掛けている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	アセスメントより嗜好を把握し、献立に配慮している。また、利用者は体調や意思に応じて、下膳や茶碗拭き等と一緒にしている。職員は食べこぼし等のサポートを行っているが、一緒に席に着いて食事を摂るまでには至っていない。	○	介助する一方にならず、利用者にとって食事が楽しい物となるよう、可能な限り同じ食卓と一緒に食事を取ることに期待します。
26	54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の入浴習慣や好みを把握しており、入浴日や時間帯、入浴方法等、利用者の意向を取り入れた入浴を支援している。職員は、利用者の入浴に対する羞恥心や負担感、安全性に配慮している。入浴を拒否する場合は、後日再度勧めるなどの工夫を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	アセスメントにより利用者の生活歴等を把握しており、一人ひとりに合った役割や楽しみごとを促す働きかけを行っている。		
28	58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	週2回の食材の買出しなど、日常的に外に出る機会を設けているほか、利用者の希望や習慣を取り入れた支援を行っている。外出の際は体調や移動方法等に配慮し支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修等で全職員が身体拘束の内容や弊害について理解しており、身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。やむを得ず身体拘束を行う場合は、その理由や方法、期間、経過観察等について記録を残す体制を明記しており、家族に説明を行い同意を得る体制が整っている。		
30	63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関に鍵を掛けていない。また居室等には鍵を設けていない。利用者の外出傾向を察知できるよう、玄関のセンサーや職員による見守りを行い、外出時には付き添う等の支援を行っている。やむを得ず施錠する場合は、家族への説明を行い同意を得るほか、無断外出時に備え、近隣から協力が得られるよう働きかけている。		
31	68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回昼夜を想定した避難訓練や誘導訓練を実施している。訓練時は消防署の指導のもと行われているほか、地域住民からも理解や協力が得られるよう働きかけている。しかし、災害発生時に備え食料や水、寒さをしのげる物品等を準備するまでには至っていない。	○	災害発生時に備え、ホーム内に食料や水、寒さをしのげる物品等を準備することに期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は、栄養が偏らないよう配慮されており、1日の総摂取カロリーや水分摂取量を概ね把握しており、必要に応じて記録している。しかし、献立や栄養摂取状況について、定期的に栄養士から指導や助言を得られる体制が整っていない。	○	市の栄養士等と連携を密にし、定期的に専門的アドバイスを得られる体制を整えることに期待したい。
33	75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを作成しており、必要に応じて見直しを行っているほか、マニュアルに基づいた研修会を行っている。また、保健所等と連携を図り、情報収集を行ったり、利用者や職員はインフルエンザ等の予防接種を受けているほか、手洗いの徹底等の予防に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
34	78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールにはソファやテーブル、椅子等が配置されているほか、畳のスペースもあり、家庭的な雰囲気である。職員が立てる物音やテレビの音量、室内の明るさは適当で、手作りの大きなカレンダーを掲示し、季節を感じることができるよう工夫している。		
35	80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者は、自分の好きな歌手のテープや写真、辞書など、なじみの物を持ち込んでいるほか、一人ひとりに合った居室作りを職員と利用者が一緒に行っている。		

※ は、重点項目。